



ふくしまオーガニック通信

～オーガニック・ランドふくしまをつくろう～

No. 25 - 2
平成25年 8月19日

農業総合センター有機農業推進室
<http://www4.pref.fukushima.jp/nougyou-centre/>
TEL (024) 958-1711

各地域からの話題

《会 津》

会津農林事務所農業振興普及部

○ ほたる鑑賞会で消費者と交流！

去る6月29日、会津美里町関山地区を会場に、会津自然塾主催のホタル鑑賞会が開催されました。

今回で10回目を数える同鑑賞会には、塾会員をはじめ県内外から50名を超える方々が参加しました。鑑賞会に先立ち「会津美里町の有機栽培農家の若い力」と題したシンポジウムが行われ、3名の地元青年が有機農業へかける情熱やこれまでの苦労話、将来に向かっての抱負などを語り、会場からは発表者への質問や激励、感想等が寄せられていました。

また「小さなおもてなし」と称した食事会には、有機野菜を使用した、ブルスケッタ（ピザ生地に有機野菜のソースやペーストをトッピング）をはじめ、野菜スティックサラダ、ケッパーの炊き込みご飯おにぎり、会員が手作りしたハーブティが振る舞われました。有機野菜を使用したこれらの料理は、参加していた子供たちにも好評で、特に野菜の甘み、旨みを堪能できるスティックサラダには『おいしい!』、『甘い!』と感嘆の声がそこかしこで上がっていました。

食後には、会津若松市在住の岩沢麻美さんによるフルートのミニコンサートが開かれ、最後は参加者全員で「花は咲く」を合唱し食事会を閉じました。

ホタル鑑賞会は、参加者とともに関山地区氷玉川沿を散策しながらホタルが現れるのを待ちました。当日は夕方に雨が降り、ホタルの飛翔が危ぶまれましたが、多数のホタルが乱舞し、参加者も幻想的なホ光の点滅に魅了された一夜となりました。



シンポジウム(右端が鹿野代表)



参加者と楽しい交流



「小さなおもてなし」料理



岩井さんのミニコンサート

《中通り》

農業総合センター有機農業推進室

○ オーガニックふくしま安達で夏野菜出荷目揃い会！

去る7月26日、有機農業者による生産者販売組織であるオーガニックふくしま安達の夏野菜出荷目揃い会兼ほ場巡回が行われました。

参加者は会員とJAみちのく安達、農業総合センター有機農業推進室を含め総勢16名でした。雨の中、集合場所である『道の駅ふくしま東和』にて、開会および現在の出荷状況等を説明後現地に向け出発しました。その後は天気も回復し、4箇所の会員ほ場を巡回し、キュウリ、ピーマン、トマト、なすといった夏野菜の生育状況、生産物の目揃いを行い、現物の確認、ほ場主への質問・意見交換、参加者同士の情報交換がなされました。

天候の影響から病害虫の懸念もありましたが、いずれのほ場も良好な生育を示しており、今後本格的な収穫が見込まれました。



ピーマン畑での目揃い



キュウリ畑で意見交換中



情報発信のためのトマト班の記念撮影

有機生産者グループの活動紹介

《中通り》

農業総合センター有機農業推進室

○ J Aみちのく安達 二本松有機農業研究会

二本松有機農業研究会（代表：大内信一氏）は、昭和53年に発足した県内でも歴史のある有機栽培組織です。発足以来、安心安全な有機農産物を通して、消費者と大地の健康を守るために活動を続けています。

会では、水稻のほか50品目以上の野菜や雑穀・大豆なども栽培しています。その他、乾麺や食用油、玄米せんべい、ニンジンジュースなどの加工品も生産しています。

販売方法は、県内外の消費者への宅配、地元の直売所や生協での販売の外に、自然食品店へ卸したりしています。

会の活動としては、早くから有機栽培の講習会を開催するなどして有機栽培の普及と技術向上に努めてきました。また、消費者に対しても農作業の体験や収穫祭を開催するなど交流を深めています。加えて、家畜糞尿・農作物残渣・岳温泉旅館の生ゴミのリサイクル、家庭菜園講習会の実施、新規就農者・研修生の受け入れなどを行っています。

こうした活動が評価され、平成14年度に第8回環境保全型農業コンクールにおいて農林水産大臣賞を受賞しています。

代表の大内さんは、「有機栽培を始めた40年前より多くの先覚者と出会い、二本松で活動してきました。多難なこともありましたが、安全な農産物の生産は必ず不可欠のものとして、応援支えて下さる人が多数存在することを実感しています。」と述べています。



二本松有機農業研究会の皆さん

《会津》

会津農林事務所農業振興普及部

○ 会津自然塾

会津自然塾（代表：鹿野義治氏）は、現会員（地元有機農業者、同友人・知人・消費者等）の中で、食の安全・安心や農村環境の保全などについての関心が高まり、それぞれの立場で地域へのUターン希望者への就農支援を行ったことを契機に、平成15年に会を設立しました。現在は会津美里町を中心に、会員72名（内生産者18名）となっています。

会では、設立当初から有機農業を実践する会員を中心に、野菜や米、菌茸の有機栽培、特別栽培農産物の生産販売（主に会員への宅配）を実施するとともに、夏の「ホテル鑑賞会」や「ひまわり祭り」、秋の「収穫祭」などを通して消費者との絆づくりと連携による交流活動を行っています。

平成19年には、生産会員のほとんどがJAS有機認証を取得したことを契機に、有機



会津自然塾の皆さん

農産物の宅配の取り組みを開始しました。また、設立当初から環境保全型農業における有機農業の重要性に着目し、土づくりのための堆肥の共同購入のほか、会独自に公開講座や講演会、消費者との交流会を定期的に開催して、地域への環境保全型農業の啓発活動を実践してきました。

平成20年には、こうした活動が高く評価され、第14回全国環境保全型農業推進コンクールで奨励賞を受賞しています。

さらに、有機農業経営の安定化をめざし、3年前から「喜多方ゆうきの和」（喜多方地域の有機農業者生産組織）と連携し、首都圏量販店への共同出荷を実施するなど地域を超えた有機農業者の連携にも力をいれています。

今年では設立10周年の節目の年を迎え、3月に祝賀会が開催されました。同席上で、NPO法人を申請することが承認され、7月には新たにNPO法人会津自然塾が誕生します。

また、新たな事業として宅配作業所の建て替えに伴う加工施設の併設も計画するなど、さらなる飛躍が期待されているところです。

実証ほ設置農家が新たに有機JAS認定を取得

会津農林事務所農業振興普及部

今年1月、猪苗代町のつちや農園（代表者：土屋孝彦氏）が認定機関『福島県』から有機JAS認定事業者としての認定を受けました。

つちや農園は、昨年から県有機実証ほ設置農家として、技術の習得に励んで来られました。昨年は、五百川を作付けし、チェーン除草機での除草効果を検討しました。今年は、品種を夢ごごちに変更し、除草の効果も良く生育も良好です。

つちや農園は、代表の孝彦氏と長男・暢彦さん、次男・直史さんの三人で、水稻（有機栽培：夢ごごち、特別栽培：ひとめぼれ）の他、花き（カラー）を栽培しています。つちや農園の米作りのモットーは、「おいしくて健康に良いお米（つちや農園代表土屋孝彦さんと次男直史さん）を、適正価格でお客様にお届けすること」です。有機栽培についても「収量は少なくても、安全・安心なお米を届けたい」との信念を持ち、栽培に取り組んでいます。

また、お米は毎年、米・食味鑑定士協会が主催する米・食味分析鑑定コンクールに出品しています。一昨年には地域品種栽培部門での金賞を受賞したほか、花きでも県の品評会で銀賞を受賞するなど高い技術を有しています。

今後ますます、御三人の活躍を期待します。

つちや農園では、日々の作業や稲の生育等をHPで公開しています。興味のある方は是非、HPをご覧ください。

（HPのURLはこちら：<http://www14.plala.or.jp/tutiyanouen/>）



今年も新規就農研修（有機農業）が実施される！

農業総合センター有機農業推進室

今年度も、農業短期大学校研修部による新規就農研修が、6月6日から9月12日に掛けて、計4回実施されます。

6月6日の第1回目は、受講予定者8名中7名が参加しました。午前中は手代木室長による講義で、「有機農業」全般についてのお話でした。

午後は「ボカシ肥料の作り方」の実習を行いました。説明の後、米糠・菜種油粕・魚粕に水を加えてよく混ぜ、小山状にしました。その後、場内の有機ほ場を見学しました。

研修は月1回の割合で行われ、7月4日には水稻の有機栽培の講義と郡山市の有機水稻栽培農家へ視察に行き、8月8日には野菜の有機栽培の講義と大玉村の有機トマト農家を視察しました。

最後に、9月12日に県内先進地の有機栽培を視察する予定です。



ボカシ肥料作り(6/6)



稲作の有機栽培の講義(7/4)



野菜の有機農家視察(8/8)

また、8月4日（日）に、矢吹町の農業短期大学校で、近い将来に就農を考えている人向けに5月から開催されている『就農準備研修』の第6回目が行われました。

この研修は、午前中は講義、午後は作物の栽培管理の実習というコマ割りで実施されています。

今回の講義は、『有機栽培の制度と現状』についてということで、農業短期大学校の横井先生により講義がなされました。

10名の研修生は、興味深い様子で聴講していました。



講義を受けている研修生

7月23日に、有機農業推進室、会津農林事務所農業振興普及部の担当者が、会津方部の有機栽培水稻農業者のほ場を農業者とともに巡回し、現在の生育状況を把握するとともに、農業者への今後の栽培管理等について情報提供を行いました。

参加した農業者は、終日参加・午後から合流・自家ほ場のみを合わせて7名で、巡回したほ場は、会津若松市・喜多方市・会津美里町・会津坂下町の9か所でした。

巡回後、農業総合センター会津地域研究所研修室において、意見交換会を実施しました。その中で、生産コストを下げる方策や、育苗期間の長期化に伴う老化防止対策への技術情報の提供が行われ、農業者からは稲わらの処理方法等についての要望が出されました。



喜多方市豊川町 佐原裕司氏ほ場



会津美里町 八木沢有機の会ほ場



会津若松市北会津町 すとう農産ほ場

《お知らせ》

○ 第8回農業センターまつりの開催

今年の日程は、9月7日(土)～8日(日) 両日とも 10:00～15:00 です。

今年のテーマは『**復興加速！ふくしまの食と農**』ということで、試験研究の成果展示や農業技術相談に加えて、講演会やセミナーも実施いたします。

また、例年どおりセンター内生産物の直売も実施いたします。

協賛イベントとして、地産地消直売展や農機具展示も行います。

詳しくは、農業総合センターのホームページ

<http://www4.pref.fukushima.jp/nougyou-centre/> をご覧ください。